



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 高橋 仁

仙台市青葉区国分町一丁目8-13
(仙台協立第1ビル 4階)

電話 022-224-2581
FAX 022-302-3406

■ 新会長あいさつ

会長 高橋 仁

国際連合の専門機関であるユネスコ（UNESCO United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization 国際連合教育科学文化機関）は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした組織であり、先の大戦直後の昭和20年（1945年）に設立されました。その2年後、仙台の地において「戦争のない平和な世界」を願い、ユネスコの活動を支援する世界初の民間組織として「仙台ユネスコ協力会」が発足しました。因みに、日本が国としてユネスコに加盟したのはその4年後のことです。仙台ユネスコ協会は、この協力会に由来しており、ユネスコ憲章のもと先人の志を引き継ぎながら「戦争のない平和な世界」と「持続可能な社会の構築」を目指してさまざまな活動を行っています。



先の大戦から80年が経過した今、未だに平和な世界は実現せず、それどころか「自国第一主義」が台頭し、戦後営々と積み上げられてきた国際協調体制による平和という構造が脅かされかねない状況となっています。このような時だからこそ、ユネスコ設立の原点に立ち返り、国をこえた世界の人々の交流と教育によって平和の構築を目指すことが重要であると考えます。仙台ユネスコ協会では、そのためにまず自分たちができることから着実に取り組んでいきます。

地球温暖化の問題を例にあげるまでもなく、どの国も「自国第一主義」ではもはや立ち行かないことは自明です。このことを踏まえて国連が「SDGs（持続可能な開発目標）」を定め、それを達成するための主導的な機関としてユネスコを位置づけ、地球規模の課題解決のために国の枠をこえて協力する取組みを進めています。仙台ユネスコ協会では、行政や企業そして学校現場とも連携しながら、SDGsを達成するためのESD（持続可能な開発のための教育）にも積極的に取り組んでいます。同時に、東日本大震災を経験した被災地として、その教訓を踏まえた「次に備える」防災の取組みにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

本協会にはさまざまな方々が会員となっております。それぞれの立場や年齢をこえて、「できること」を「やりがい」をもって実践し、「戦争のない平和な世界」の構築と地球規模の課題解決に貢献できるよう活動しております。仙台ユネスコ協会の80年の歴史を振り返りながら、将来に向かって活動の輪をさらに広げていきたいと思ひます。多くの皆様に参画していただければ幸甚です。

会長退任のあいさつ

みなさまの支えにより伝統ある仙台ユネスコ協会の会長として、3期6年の任期を全うできましたことを心から御礼申し上げます。新型コロナウイルスによるパンデミックの危機の中でも、マスクの寄附、オンラインによる文化交流事業など草の根のユネスコ活動を力強く継続できました。その後もキリバス共和国との友好連携、東北大学、宮城教育大学や仙台大学、ESD活動支援センター等との連携、環境省の潮風トレイルを活用した「ユネスコカレッジ」の

新たな展開、企業会員も含めたSDGsへの取組、大学生・高校生による七夕、青年部の子どもキャンプの復活など、さまざまな活動ができました。いずれも執行部のチームワークと会員みなさまのご協力の賜物です。この度、協会民主化の一環として新たに会長の任期制を導入でき、高橋仁新会長の下での飛躍と発展を祈念しつつバトンタッチできますことを心から感謝申し上げます。

見上一幸

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

第82回 定時総会を開催しました

5月30日(金)10時より協立ビル4階の会場にて、第82回定時総会が開催されました。議決権行使者は、年度初会員212名のうち会場出席者40名、書面決議者60名及び決議委任者29名の合計129名で、針生真由美事務局長が定足数を満たしていることを報告し、見上一幸会長が議長となり議事を進めました。

第1号議案「2024年度計算書類等」は、2024年度の事業報告及び財務諸表等です。第2号議案「役員選任の件」は、本総会で全員が任期満了となる役員（理事、監事）を選任するものです。候補の理事20名及び監事2名が承認されました。報告事項「2025年度事業計画書及び収支予算書」も満場一致で承認されました。尚、総会に引き続き開催した第2回理事会で理事の中から会長、副会長及び専務理事を選定し、事務局長も選任しています。選任された名誉会長、顧問及び参与、参事（事業推進委員）を含めた新役員等は表の方々です。

（理事：針生真由美 記）



2025年度 役員名簿

氏 名	役職
高橋 仁	代表理事 会長
松坂 宏造	理事 副会長
内藤 恵子	理事 副会長
佐藤 芳郎	理事 副会長
須佐 凉子	代表専務理事
針生 真由美	理事 事務局長
阿部 さかえ	理事
安藤 伸子	理事
岩山 浩一	理事
神坂 旭	理事
菊地 恵美子	理事
小泉 知加子	理事
小林 拓世	理事
西條 清和	理事
鈴木 かつら	理事
高橋 睦子	理事

氏 名	役職
畠山 明	理事
岡 邦広	理事
橋本 英子	理事
若生 壺輝	青年理事
熊谷 真人	監事
千葉 雅保	監事
村井 嘉浩	名誉会長
見上 一幸	顧問
井口 経明	参与
市瀬 智紀	参与
赤塚 吉雄	参事
五十嵐梨絵子	参事
砂金 みどり	参事
加藤 美恵子	参事
川合 進	参事
川村 洋子	参事

氏 名	役職
菊地 伊津子	参事
國分 公正	参事
佐浦 公美	参事
佐藤 郁	参事
佐藤 鉄二	参事
佐藤 光記	参事
佐藤 信	参事
鈴木 弘二	参事
高橋 教義	参事
千田 稔	参事
富田 義雄	参事
中嶋眞佐子	参事
原 一代	参事
林 健一	参事
村井 えみ子	参事
浅野 美枝子	参事
櫻井 悦子	参事
曳地 健太	参事

6年間の見上会長体制に感謝

見上一幸会長のご就任期間は2019年～2024年の6年間でした。組織の健全な持続性を考え、ご自身で会長の在任期間に限度を設けられたのです。2015年に国連サミットでSDGsが採択され、ESDがユネスコを主導機関として取り組まれる中、ESD推進の第一人者としての見上会長の存在は、仙台ユネスコ協会にとって大きな拠り所でした。ESD/SDGs委員会は、会長就任と同年にスタート

しましたが、国連や国内委員会の動向、日ユ協連の考え方などの情報が見上会長によってもたらされ、事業推進の原動力となりました。

4月からは幼稚園長になられ、幼児との生活を楽しく話されていらっしゃるようですが、顧問としても、もうしばらく二拠点生活をお願いし、ご指導を賜りたいと思います。

（ESD/SDGs委員会委員長/副会長：内藤恵子）

ユネスコ会員企業紹介

～SDGsの取り組みについて～

宮城県青年海外協力隊を支援する会 「多文化共生社会へのコーディネーター」

青年海外協力隊（現在はJICA海外協力隊）は1965年に発足して、今年で60周年を迎えます。これまで、農林水産など9つの分野、190以上の職種でそれぞれの技術・経験を活かし、開発途上国の人々のために活動してきました。現在の派遣数は全国累計で57,000人となり、この中で、宮城県出身の隊員は約1,000名を数えます。



派遣前の宮城県副知事表敬訪問

協力隊が派遣されてきたこの60年間は、派遣対象国の拡大とODAの規模拡大に伴って、1994年に応募者が11,832人のピークとなりましたが、近年では、日本の産業構造の変化や派遣国での経済成長もあって、協力隊に応募する人数も漸減している状況（2,000人程度）となっています。

当会は、宮城県から派遣された隊員の支援活動や帰国した隊員の体験報告会の開催など地域での国際交流に関わる任意団体として今年で37年目となります。これまでの活動の一つとして、本県出身隊員の現場を訪ね、派遣国の実情を学ぶと共に激励を目的に1990年～2018年までの約30年間、計24回（20ヶ国）の「視察の旅」を続けてきました。

この間、日本社会では人口減少と少子高齢化が進み、労働人口の減少に伴う現実的な対応策として外国人労働者の受入れが急増しています。宮城県でも外国人労働者数（2024年10月末時点）が19,554人（前年同期比の17.9%増加）となり、過去最高を更新しています。

このような状況において、彼らの派遣国で住民と一緒に暮らした協力隊員経験者は、日本国内での外国人と地域住民を繋ぐ多文化共生コーディネーター役として使命があると捉えています。このような視点に立って、去年は国際交流イベント「せんだいワールドフェスタ2024」をメディアテークで共催し、技能実習生とのトークセッションでは日本での暮らしや彼らの希望について伺いました。今後ともぐっと身近になった外国人との国際理解や国際協力活動を行って参ります。



せんだいワールドフェスタでの帰国報告



派遣隊員の壮行会

〒982-0252 宮城県仙台市太白区茂庭台5丁目12-25

TEL 022-281-1886

<https://sienjocvmg.org/japan>

(株)かね久 「食のみやぎ応援団」を通じた地域貢献

2012年11月かね久が中心となり、「食のみやぎ応援団」を設立。地産地消の推進、食育、安全・安心な食の提供を通じて地域経済の活性化と次世代への食文化継承に貢献しています。

2021年1月には「食のみやぎ応援団SDGs宣言」を採択し、現在約150社の会員企業・団体が連携してSDGs達成に向けた取り組みを加速させています。

1. 低利用資源を活用する

「みらい・バリュー・TOHOKU」2024年6月に発足した「みらい・バリュー・TOHOKU」では、これまで有効活用されてこなかった低利用資源の活用に焦点を当てた商品開発に注力しています。

主な商品例:

- ・深海魚フライ: 深海魚「ノロンボ」の商品化で漁業者の収入向上に貢献。
- ・たこ揚げクン: 通常廃棄されがちなタコの皮を有効利用し、資源の循環を促進。
- ・気仙沼産フカフカクリスピ



仙台みらい創造フォーラムでの展示風景



低利用資源活用プロジェクトの発足式の様子

一: サメ肉の新たな食べ方を提案し、低利用部位の活用と水産資源の有効利用に貢献。

2. 行政連携によるSDGs普及啓発と能登半島地震復興支援行政と連携し「SDGs Expo」や定期的な「食のみやぎ応援団展示会」を開催し、地域住民や企業、団体へのSDGsの意識向上と行動変容を促しています。

3. 能登応援企画「みやのとプライド」の取り組み

能登半島地震の被災地を訪問し、現地の声を聞きながら復興支援にも尽力。石川県食品協会との包括的連携協定を締結し、被災地域の食材を活用した商品開発・販売を通じて、収益の一部を能登の復興に充てる活動を継続しています。現在約10商品の開発が進んでおり、2025年8月には能登味噌を使用した「カキクリームコロッケ」の発売を予定しています。

これからも「食」の力を通じて、持続可能性の追求に貢献してまいります。

〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町2丁目6-4

Kanekyuビル

TEL 022-353-7697 FAX 022-353-7698

<https://kanekyu-panko.com/>



行政と連携したSDGsイベントの開催

青年部 だより

今年度7名の新会員が入会し、現在19名で活動しています。青年部活動の2大事業ともいえる「宮城ユネスコ子どもキャンプ」と「平和祈念七夕プロジェクト」をほぼ同時期に開催するため、今が最も多忙な時期ですが、ユースの行動力と情報発信力で取り組んでいます。ホームページ上の青年部のInstagramを、ぜひ、いいね♡してください。キャンプ、七夕とも、チラシはホームページでご覧いただけます。

「第7回宮城ユネスコ子どもキャンプ」 8月13日（水）～14日（木）

一泊二日今年のテーマは「みっけ!!!～みんなのたからもの～」 本当に大切な“たからもの”は、実は身近なところに隠れているのでは？自分の長所、仲間の魅力、自然の豊かさ—それらはすべてかけがえのない“たからもの”。キャンプでの活動を通して、身近な“たからもの”に気づき、それを大切にできる人になって欲しいと思い、このテーマを設定しました。

参加対象は小学4年～中学3年、一度参加するとまた参加したくなるキャンプです。会員の皆様の身近なお子さんに、お声がけください。

申し込みはチラシのQRコードから。
(実行委員：吉田彩音 小田凜々栞 若生竜輝 井上海)



「平和祈念七夕プロジェクト」

3回目となる今年度は、東北大学GLCと締結した覚書に基づき、大学生や留学生が、高校生と一緒に活動します。日本の伝統文化の体験活動を通して文化の多様性に気づき、留学生には仙台での交流活動を豊かにして欲しいと思います。七夕飾りのデザインは青年部や高校生が考えました。平和への思いを込めています。材料提供と技術指導は、今年もマルイチ商事壹岐様にご協力いただきます。制作は、7月の毎週土曜日午後。制作した七夕飾りは、仙台七夕まつりの期間中、仙台駅東口松栄不動産前に設置される他、近くのテントで、短冊づくりの呼びかけや観光案内を行います。

チラシのQRコードからは、昨年の様子をご覧になれます。

(チラシ制作：佐藤美桜

QR情報制作：吉田ひめ

飾りデザイン：佐藤美桜 井上海

加藤唯月 鈴木心実 遠藤あおい 苦居かの葉 土屋遼人 原慧百)



「民間ユネスコ運動の日」 記念講演

仙台は1947年7月19日に世界で初めて、民間ユネスコ運動を推進する組織「仙台ユネスコ協力会」が誕生した地です。それを記念して、当協会は毎年7月に記念行事を開催しています。

今回の講師は福井勇貴氏で柔道を通じた様々な形で国際交流活動を紹介していただきます。20代若者の熱意溢れるお話が聞けると思います。皆様方のご参加をお待ちしております。

記

日時：7月6日(日)14時から

場所：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

演題：「ブータンから学んだ国際交流」

講師：JICA海外協力隊 福井勇貴氏

以上

(企画・広報委員会委員長/副会長：松坂宏造 記)

これからの行事予定

- 7月 6日(日) 民間ユネスコ運動の日」記念講演会
- 8月13日(水), 14日(木) 第7回宮城ユネスコ子どもキャンプ
- 10月10日(金) ユネスコカレッジ

「書きそんじハガキ・キャンペーン2024」報告 ご協力ありがとうございました

皆様のご協力をいただき総計185枚が集まりました。これらのハガキは10,555円の切手に交換して日本ユネスコ協会連盟に寄贈することができました。

書きそんじハガキは、「ユネスコ世界寺子屋運動」として1989年に

開始し、皆さまのご協力のお陰で、44ヶ国135万人の子どもたちが学ぶことができ535軒の寺子屋を建てることができました。今後もSDGsの達成に向けた取り組みのひとつとして、世界各地の貧困地域で「学ぶ場＝寺子屋」を通して人材を育成し、自立した持続可能な社会を応援して参ります。引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(企画・広報委員会委員長/副会長：松坂宏造 記)



会員募集 あなたも参加しませんか！

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています！

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

※青年部：学生は無料

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	74
個人会員	126
青年部会員	19
合計	219

(5月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
畠山 明 岩山 浩一
佐藤 光記 千葉 雅保

【編集後記】

ユネスコ会報478号をお届けします。2月から5月までの活動報告をまとめました。5月に第82回通常総会が開催され、新役員が選任されました。また、新会長仙台大学の高橋仁学長が就任されました。東北大学、宮城教育大学、仙台大学との連携がさらに深まることでしょう。当会是一人ひとりが思いやりの活動をしています。皆様もお仲間に加わって、いっしょに活動しませんか。
仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子